

第80回県展 審査員略歴

<>内は高知県展審査員歴

敬称略

【洋画部】 榎木 野衣 (さわらぎ・のい) <初審査>

1962年埼玉県出身。美術批評家。主な著書に「シミュレーションイズムーハウス・ミュージックと盗用芸術」「日本・現代・美術」「『爆心地』の芸術」「反アート入門」など多数。「後美術論」は第25回吉田秀和賞、「震美術論」は平成29度芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。最新刊に「末世の芸術—来たるべき無人類のために」

【日本画部】 渡辺 信喜 (わたなべ・のぶよし) <初審査>

1941年京都府出身。京都市立美術大学日本画科卒業。京都府文化賞功労賞、日展内閣総理大臣賞、京都市文化功労者表彰。日展理事、日春会副理事長。京都精華大学名誉教授

【彫刻部】 福本 紀孝 (ふくもと・としかか) <初審査>

1947年岡山県出身。日本大学芸術研究所修了。新制作展新作家賞、関西新制作展50回記念賞など受賞。新制作協会会員

【工芸部】 松原 龍一 (まつばら・りゅういち) <初審査>

成城大学卒業。元京都国立近代美術館副館長。2025年より新居浜市美術館館長。その他、広島市立大学客員教授、同志社大学嘱託講師、愛知県立大学非常勤講師、沖縄県立芸術大学非常勤講師

【書道部・漢字】 山中 翠谷(やまなか・すいこく) <73回展>

1950年埼玉県出身。大東文化大学卒業。毎日書道展会員賞、毎日書道顕彰「芸術部門」、毎日書道展文部科学大臣賞など受賞。毎日書道会理事、全日本書道連盟評議員、全国書美術振興会監事、独立書人団理事長

【書道部・かな】 近藤 浩乎 (こんどう・ひろこ) <初審査>

名古屋大学法学部卒業。日展特選、愛知県文化選奨文化賞、東海テレビ文化賞など受賞。日展審査員を2回務める。日展会員、読売書法会常任理事、日本書芸院董事、現代書道二十人展出品作家

【写真部】 三好 和義 (みよし・かずよし) <72回展>

1958年徳島県出身。東海大学広報学部卒業。中学時代より本格的に写真撮影を開始し、日本に復帰したばかりの沖縄へ撮影に出向く。以降、何度か訪れ、現在でも最年少記録の17歳で銀座ニコンサロン(当時)にて個展を開催。大学時代に本格的にプロカメラマンとして活動を開始。27歳で木村伊兵衛写真賞を受賞(当時最年少)。以降、「楽園」をテーマに世界中で撮影。近年は日本文化に関わる撮影を中心に活動。近著は「法隆寺」

【グラフィックデザイン部】 山下 浩平(やました・こうへい) <初審査>

1971年熊本県出身。神戸市で育ち、明石高校美術科、大阪芸術大学美術学科卒業。グラフィックやキャラクターを軸にデザイン活動を行いながら、生き物をモチーフにした絵本などの創作を行う。「きょうりゅうゆうえんち」「おばあちゃんとかめ」など著作多数。2025年大阪・関西万博の公式キャラクター「ミャクミャク」の作者でもある

【先端美術部】 尾崎 信一郎(おさき・しんいちろう) <初審査>

1962年鳥取県出身。大阪大学文学部大学院芸術学研究科博士課程修了。兵庫県立近代美術館、国立国際美術館、京都国立近代美術館に勤務した後、鳥取県立博物館に勤務。2025年に開館した鳥取県立美術館の初代館長。著書として「絵画論を超えて」「戦後日本の抽象美術」、共著として「美術批評と戦後美術」ほか多数